十九世紀末、児童文化の一時代を画した児童向け総合雑誌の「大王」、待望の復刻！

第二年（明治二三）第一八号口絵

石井研堂＝主宰

小国民

［復刻版］全十六巻＋別冊一

一八八九（明治二二）年七月～一八九五（明治二八）年二月

上笙一郎・上田信道＝復刻版編集

『小国民』は、児童文学・児童文化の草創期に創刊された少年・少女向け児童総合雑誌の嚆矢である。のちに創刊された博文館の『幼年雑誌』と人気を二分したが、あくまで優位を保ち、多くの読者を虜にした。執筆はほとんど石井研堂ひとりが行なったが、石井の親友・幸田露伴なども寄稿、常連投稿者には、小山内薫・金田一京助・鈴木三重吉などがいた。本復刻では、創刊の一八八九（明治二二）年から誌名の改まる一八九五年までを対象とし、児童文学史及び近代教育史・文学史研究に寄与しようとするものである。

不二出版

カラー口絵見本

本文見本

小國民。第四年第九號目次。

彩色石版畫――支倉六右衛門の圖
西洋木口版――猿猴類の標本
表紙畫――支倉六右衛門の肖像
罹災後の小國民。　五孝子父に代る。（二圖入）
飛驒の内匠。（二圖入）　傀儡。
製圖法。（圖入）　三階蕎。（圖入）
毎月七曜表。（二圖入）　碁石拾ひ。（圖入）
長谷部信連。　支倉六右衛門。（圖入）
文福鑑。（圖入）　近世名家尺牘。（版入）
郵券集め。（七圖入）　化學上の遊興。（二圖入）
長短の振子。（三圖入）
地球の衣服。（二圖入）　巡回記補遺。（三圖入）
朝鮮人の馳走。（圖入）　不經濟。（圖入）
學生の砲。（圖入）　猿猴類。（二圖入）
珊瑚蟲。（四圖入）　赤鶴。（圖入）
日本事始め。　話の種。
打力計。（圖入）　笑林。（三圖入）
互報。（圖入）　考物。
文林。（七圖入）
附錄＝源爲朝傳。（五圖入）
挿畫大小五十九版

館告。

○次號の豫告。極彩色木版畫は源頼信盜を叱して赤兒を救の圖なり。動物標本畫に代るに、シャム國人の風俗密刻畫を以てし、最も親切に同國の說明をなす。●本號に掲ぐべき約束にて、遂に掲ぐると能はざる數件は、置ツて次號にかゝぐ。○珊瑚のと等次號にて完結し有益にして興味多き新訳事を以て滿たし、本館の百事整理したる實を現はすべし。

○三書新すれば、今後附錄を紙上に語學動著るの思ひ切り推し測る。○問合せ

○用紙。○左右に○楷書。○各件多る類。○何原稿。○毎紙、○番地。○郵原稿税先

學齡館編輯部述
孝經講義
定價金八錢　郵税金貳錢
學齡館編輯部述

第十號

おさづけ、無理でもいやでも、われに從はなければ汝みせしめのために、と、一ツつかみにしそうでありますから、そばにをる物共が、あぶなく思つて、鳩野に逃げさせましたが、其時すでにおくれた爲めに、わづか一町も飛ばないうちに、大鷹は羽風をきつておひかけ、何の苦もなく、鐵のやうな指先で、鳩野のくびをシッカリにぎりましたから、鳩野は手向することもできず、カァイさうに、とう〳〵大鷹の餌食にせられ、之を見てをる面〻は、皆恐がつてブル〳〵ふるへて一言も出ません。

雪姫の話。

第一回。　ふしぎな鏡。

丁度冬の最中でありました。雪が鵝毛のやうにチラ〳〵降つて居りました。一個の女王が、黒柿にて作つた窓に倚り掛り、縫仕事をしてゐられました。雪の眺めが餘りおもしろきゆゑ、其景色を見よとして、誤て針で指を刺かれました。さうすると、三滴の血が、雪の中に落ちました。紅の血が白き雪に映りて、美しく見えました。女王が思はれるに、妾は、斯く雪の樣に色が白く、血の樣に唇が紅に、又た此の黒柿の樣に髪の黒い

復刻にあたって

この日本の歴史において、人の〈子ども＝子ども期〉は江戸時代の中期に認識され、〈子ども階層〉は近代初期に確かなものになったと言えようか。そういう中で、『小国民』（一八八九＝明治二二年創刊）は、子ども階層成立期を支えた児童雑誌のユニークなひとつであった。

先行の雑誌『穎才新誌』（一八七七＝明治一〇年創刊）は青少年の投稿作文が主軸だったが、一〇年をへだてて出た『少年園』（一八八八＝明治二一年創刊）と『小国民』とは、〈成人〉が〈子どもたちの為に〉との意識を明確にして書いた諸種・多様な記事・文篇・読物を内容としており、近代的な児童文化を育てる大いなる揺籃の役を果たした。

編集に当った石井研堂は、やがて明治文化研究における証人的研究者として大きな地歩を占めた人、小学校教師の経験を持ち、生涯、子どもの主体性＝自発性を尊重しての教育的意識を失わぬ人であった。その編集姿勢が子どもたちの信頼を集め、『小国民』は次第に他誌を凌駕し、ついには、「小学雑誌の大王」とみずから誇り得る位置にまで達したのである。

『小国民』は、近代初期の教育や児童文化はもちろんのこと、文学・思想・歴史その他の研究に関しても、資料の宝庫だと言ってさしつかえない。しかし一〇〇年以上の歳月が経った今では容易に眼にすることはできず、それゆえここに復刻しておくのだ。

一四年にわたり刊行された総量は膨大なので、この度は、もっとも生彩を放っていた時期のものを復刻した。すなわち、創刊よりの七年分、政治問題に言及したとの理由をもって発行停止の処分を受け、誌名『小国民』の〈小〉の字を〈少〉と変え、『少国民』と改めた一八九五（明治二八）年までの一四二冊である。

不二出版は、『穎才新誌』と『少年園』を先年すでに復刻しており、『小国民』復刻はそれにつづく事業である。教育・児童文化・文学・思想・歴史・出版その他の研究にたずさわる人びとに、大きな福音とならんことを。

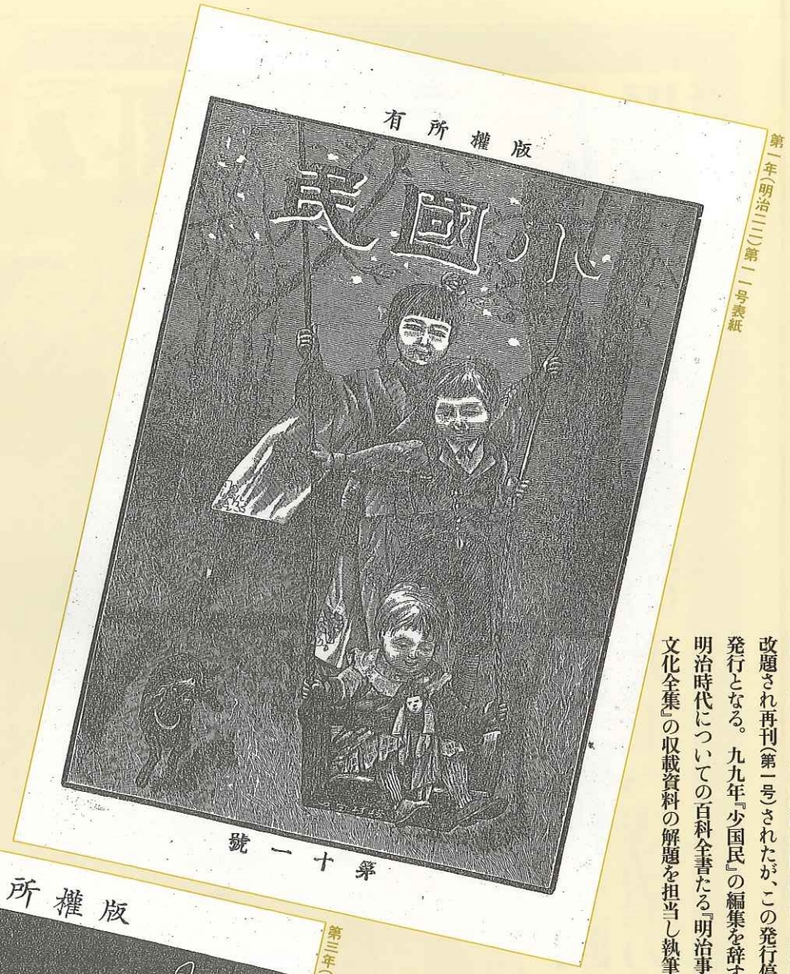
——一九九八年秋

〈編者〉**上笙一郎**（児童文化研究家）**十上田信道**（大阪国際児童文学館主任専門員）

石井研堂（一八六五～一九四三）

児童雑誌編集者、児童読み物作家、明治文化研究家。本名＝民司（または民二）。

一八六五（慶応元）年、福島県郡山市に生まれる。郡山小学校を経て、私塾に通い、小学校中等科・高等小学校教員免許状を取得、一八八九年、二四歳のとき『小国民』の創刊に関与、同じ年に小学校訓導となるが翌々年辞職して『小国民』編集に専念。九二年『日本漂流譚 第一編』、九四年海洋小説『鯨幾太郎』を、そして科学読み物の叢書『理科十二ケ月』（一九〇一年、一二冊）、『少年工芸文庫』（一九〇二～〇四年、二四冊）等を著して好評を博す。九五年、『小国民』（第七年第一号）で海軍の手旗信号を紹介したことを軍事機密を公開したとの理由で告発される（一年後に無罪）。控訴中、同一八号（九月刊）の論説「嗚呼露国」が治安妨害との理由で発行停止処分を受ける。『小国民』は同年一一月『少国民』に改題され再刊（第一号）されたが、この発行停止処分が響き、翌年発行所学齢館倒産、第八年第二四号からは北隆館の発行となる。九九年『少国民』の編集を辞す。一九〇八年、雑誌『実業少年』（博文館）の編集を担い、主筆となる。同年、明治時代についての百科全書たる『明治事物起原』刊行。二四年吉野作造らと明治文化研究会を創設。二七年、『明治文化全集』の収載資料の解題を担当し執筆。七八歳で逝去。



第一年（明治二二）第一二号表紙

第三年（明治二四）第一二号表紙

推せんの言葉（五十音順）

児童雑誌の王道を拓いた『小国民』

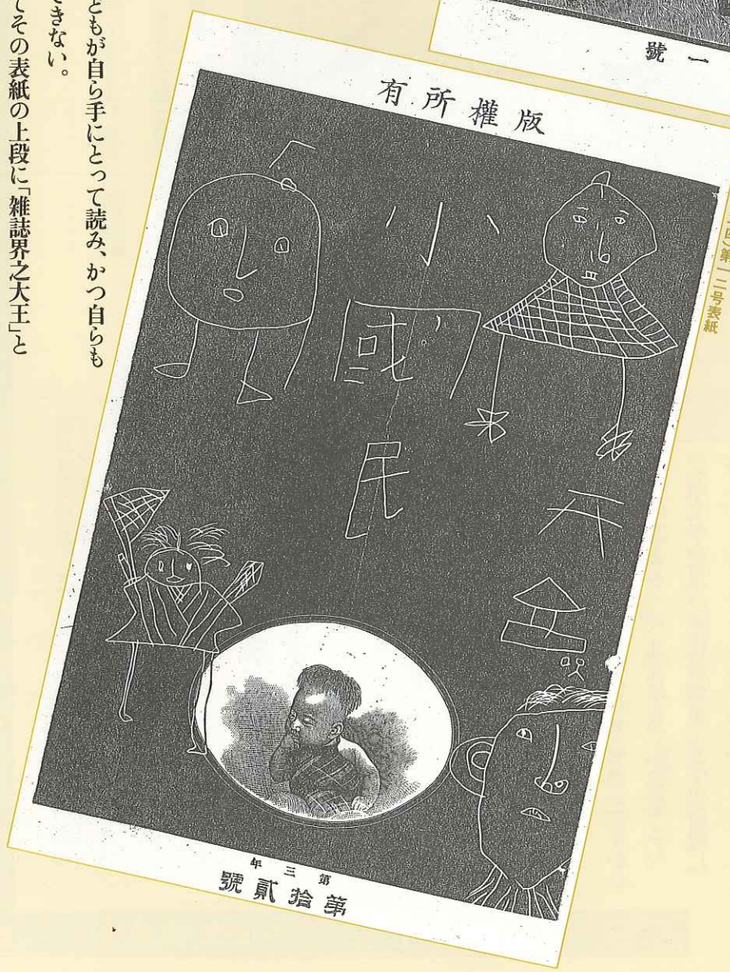
勝尾金弥（元梅花女子大学教授）

児童文学、あるいは子どもの読物の歴史について考えようとするとき、子どもが自ら手にとって読み、かつ自らも文章をつくって投稿を試みたりした、児童雑誌の存在をぬきにすることはできない。

『小国民』は、明治二〇年代に刊行された数多くの児童雑誌のなかで、やがてその表紙の上段に「雑誌界之大王」と明記するほど、他にぬきんでたものであった。児童雑誌の流れの上では、この地位は、博文館の『少年世界』に受けつがれ、さらに大日本雄弁会講談社の『少年倶楽部』へとバトンタッチされていく。本誌は元祖「大王」であり、

第一年（明治二三）第一一号表紙

改題され再刊（第一号）されたが、この発行停止処分が響き、翌年発行所学齢館倒産、第八年第二四号からは北隆館の発行となる。九九年『少国民』の編集を辞す。一九〇八年、雑誌『実業少年』（博文館）の編集を担い、主筆となる。同年、明治時代についての百科全書たる『明治事物起原』刊行。二四年吉野作造らと明治文化研究会を創設。二七年、『明治文化全集』の収載資料の解題を担当し執筆。七八歳で逝去。



第三年（明治二四）第一二号表紙

推せんの言葉（五十音順）

児童雑誌の王道を拓いた『小国民』

勝尾金弥（元梅花女子大学教授）

児童文学、あるいは子どもの読物の歴史について考えようとするとき、子どもが自ら手にとって読み、かつ自らも文章をつくって投稿を試みたりした、児童雑誌の存在をぬきにすることはできない。

『小国民』は、明治二〇年代に刊行された数多くの児童雑誌のなかで、やがてその表紙の上段に「雑誌界之大王」と明記するほど、他にぬきんでたものであった。児童雑誌の流れの上では、この地位は、博文館の『少年世界』に受けつがれ、さらに大日本雄弁会講談社の『少年倶楽部』へとバトンタッチされていく。本誌は元祖「大王」であり、いわば王道をひらいたものであった。

このような『小国民』だが、大阪国際児童文学館の紀要にその細目と解題が連載されたほかは、細部にわたる研究はほとんどなされていない。その障壁の第一が原資料に日常的に接することがむずかしい点にあった。その障壁を一挙にとりこわす今回の刊行によって、わが国の児童文学草創期についてのさまざまな分野の研究が、大きく前進するであろうことは火をみるより明らかである。

自称「雑誌界之大王」の検証が、これからはじまるわけである。

「復刻」という仕事

本田和子（聖学院大学教授）

『小国民』が復刻されるという。『明治事物起原』を著し、吉野作造らと明治文化研究会を主催し、『明治文化全集』の編纂にも携わった石井研堂の明治文化へのこだわりが、少年雑誌『小国民』の編集からスタートしていたことは興味深く、その作られたものを通して内実を知ることは十分に意味があろう。

ところで、この雑誌の復刻は、おそらく、上笙一郎氏らによる明治児童文化史研究の一端であろうし、『穎才新誌』『少年園』『少年世界』に続く当然の営みであったに相違ない。しかし、明治期の少年雑誌を現代の視界に曝すというこうした営みが、相次いで軌道にのるという現状に対しては、いささかならぬ感慨をそそられよう。というのは、現代における「復刻」という仕事が、従来とは異なる新しい意味を担い始めたと思うからである。

著書にせよ雑誌にせよ、マイクロ・フィルムあるいはCD－ROMによって、これまでとは比較にならぬ簡便さで検索・探知することができるようになった。したがって、内容を知るだけならそれらで十分であるにもかかわらず、復刻という仕事が市場にのるとは……。

このことが物語るのは、私どもが、無意識裏に「本」なるものに付与している「もの」としての価値にほかなるまい。たとえば、かつて少年たちがいとおしんだ書物を理解しようとするなら、紙面を飾る活字や挿絵の色や形、綴じられた紙の厚さや手触りなど、質量を備えた「もの」としての「本」に触れることこそ肝要と密かに思い定めているのではないか。彼らと同じように手に取ってみたいと……。

情報の供給源としては今後ますます活気を呈するであろう電子ブックの市場に、復刻本が割って入り得ることの理由は、編集者たちの愛の結晶として作られた「本」という「もの」を、「もの」としてまるごと感受したいというそんな思いとは言えないだろうか。

明治のエンサイクロペディスト＝石井研堂の編集文化体系を見る絶好の機会

山口昌男（文化人類学者・日本記号学会会長）

関連図書のご案内

陽其二・堀越修一郎ほか＝編

穎才新誌（えいさいしんし）《全20巻・別冊1》

- 明治10年～明治31年刊
- 別冊＝解説（上笙一郎）・総目次・索引
- B5判・上製・総9、732頁
- 本体揃価格＝460、000円＋税
- 推薦＝大久保利謙・上笙一郎・唐澤富太郎・佐藤秀夫・久木幸男・堀越克明・本田和子

本誌は、自由民権運動のただ中に創刊された全国的規模の投稿雑誌の先駆である。明治初期・中期の青少年たちの文章・絵画・詩歌・書の晴舞台であった本誌は、「明治文学の幼稚園」と呼ばれるほど、のちに多くの作家・政治家・学者を輩出した。一八七〇～九〇年代日本の、地方も含めた文化・社会状況を生々しく体現する第一級資料として近代思想史・教育史・文学史研究に提供するものである。

山縣悌三郎＝主宰

少年園《全13巻・別冊1》

- 明治21年～明治28年刊
- 別冊＝解説（滑川道夫）・総目次・索引
- A5判・上製・函入・総7、100頁
- 本体揃価格＝220、000円＋税
- 推薦＝上笙一郎・唐澤富太郎・桑原三郎・佐藤忠男・滑川道夫

本誌は、近代国家形成期の明治二〇年代、学校教育・家庭教育・社会教育と並んで書籍による少年教育を多分に意識した雑誌で、刻苦勉励して自己の道を切り拓き功成

いわば王道をひらいたものであった。

このような『小国民』だが、大阪国際児童文学館の紀要にその細目と解題が連載されたほかは、細部にわたる研究はほとんどなされていない。その障壁の第一が原資料に日常的に接することがむずかしい点にあった。その障壁を一挙にとりこわす今回の刊行によって、わが国の児童文学草創期についてのさまざまな分野の研究が、大きく前進するであろうことは火をみるより明らかである。

自称「雑誌界之大王」の検証が、これからはじまるわけである。

「復刻」という仕事

本田和子（聖学院大学教授）

『小国民』が復刻されるという。『明治事物起原』を著し、吉野作造らと明治文化研究会を主催し、『明治文化全集』の編纂にも携わった石井研堂の明治文化へのこだわりが、少年雑誌『小国民』の編集からスタートしていたことは興味深く、その作られたものを通して内実を知ることは十分に意味があろう。

ところで、この雑誌の復刻は、おそらく、上笙一郎氏らによる明治児童文化史研究の一端であろうし、『穎才新誌』『少年園』『少年世界』に続く当然の営みであったに相違ない。しかし、明治期の少年雑誌を現代の視界に曝すというこうした営みが、相次いで軌道にのるという現状に対しては、いささかならぬ感慨をそそられよう。というのは、現代における「復刻」という仕事が、従来とは異なる新しい意味を担い始めたと思うからである。

著書にせよ雑誌にせよ、マイクロ・フィルムあるいはCD－ROMによって、これまでとは比較にならぬ簡便さで検索・探知することができるようになった。したがって、内容を知るだけならそれらで十分であるにもかかわらず、復刻という仕事が市場にのるとは……。

このことが物語るのは、私どもが、無意識裏に「本」なるものに付与している「もの」としての価値にほかなるまい。たとえば、かつて少年たちがいとおしんだ書物を理解しようとするなら、紙面を飾る活字や挿絵の色や形、綴じられた紙の厚さや手触りなど、質量を備えた「もの」としての「本」に触れることこそ肝要と密かに思い定めているのではないか。彼らと同じように手に取ってみたいと……。

情報の供給源としては今後ますます活気を呈するであろう電子ブックの市場に、復刻本が割って入り得ることの理由は、編集者たちの愛の結晶として作られた「本」という「もの」を、「もの」としてまるごと感受したいというそんな思いとは言えないだろうか。

明治のエンサイクロペディスト＝石井研堂の編集文化体系を見る絶好の機会

山口昌男（文化人類学者・日本記号学会会長）

石井研堂主筆の『小国民』復刻版が出ることになったという情報に接して、小踊りせんばかりに喜んだといっても誇張ではない。私たち――歴史の佐藤洋一氏（福島県立博物館）、文学批評の坪内祐三氏と私の三人は、六年前から石井研堂ゆかりの福島県内で三年間毎年夏休みに研堂研究会を催した。その成果の一部が佐藤氏の努力で筑摩文庫版の『明治事物起原』に反映されたが、ここにまた不二出版による学齢館版『小国民』の復刻となって現れることになった。慶びに耐えない。

昨今、「編集文化」という言葉が狭い意味での雑誌・単行本の機械的編集を越えて使われている。すなわちそれは、あらゆる分野に散らばる知の源泉としての断片的な事実を分野を越えて蒐集、整理そして総合化して、知の未だ充分に姿を現していない分野についての展望を拓くという行為なのである。

研堂は、少年理科・産業読物・地理教科書・昔話採集・事物起源・漂流記はいうにおよばず、実業に入った修業期間の少年のための雑誌『実業少年』にまで手を染めた。そして『小国民』において幸田露伴や幸堂得知（劇評家）など、根岸派に近い文人を動員しつつ、自らほとんど独力で文科・理科を総合する大編集文化の体系を打ち樹てた。

『小国民』は、三年程の短命ながら合田清を中心に木口木版という木彫芸術をふんだんに挿絵として使っており、日本近代の美術史の上でも忘れることのできない刊行物であった。

「子どもの文化」の継承と発展のために

山住正己（東京都立大学総長）

この四〇年ほどの間に、戦前の諸雑誌の復刻版が出された。教育関係では生活綴方など民間教育運動のものが多い。これらの運動は戦前、弾圧されたので読者は限られていたのに対し、復刻版が若い研究者・教師を刺激し、その継承・発展が始まった。子どもの文化関係では鈴木三重吉主宰の『赤い鳥』復刻は社会的にひろく話題になった。

しかしこれらに先立つ『小国民』については出版社も売行きが心配で、なかなか復刻にふみ切れなかった。私自身もそれを提案する自信はなかった。それだけに今回、『少国民』と改題された年までのものの復刻をすすめた出版者・編集者の見識と勇気に敬意を表する。

『小国民』の編集にあたった石井研堂はその前に小学校の教壇に立っており、後には『明治事物起原』（一九〇八年）を執筆し、二四年以降、吉野作造らと『明治文化全集』の編纂に従事した。教師の経験をもち、しかも博覧強記、文化についての造詣の深い人が全力投球でつくったのだから、『小国民』が高い内容を保ち、子どもをひきつける文章に満ちていたのは当然である。その復刻は今後、子どもの文化にたずさわる人々にとって参考となるところが多いと思う。

関連図書のご案内

陽其二・堀越修一郎ほか＝編

穎才新誌（えいさいしんし）《全20巻・別冊1》

- 明治10年～明治31年刊
- 別冊＝解説（上笙一郎）・総目次・索引
- B5判・上製・総9、732頁
- 本体揃価格＝460、000円＋税
- 推薦＝大久保利謙・上笙一郎・唐澤富太郎・佐藤秀夫・久木幸男・堀越克明・本田和子

本誌は、自由民権運動のただ中に創刊された全国的規模の投稿雑誌の先駆である。明治初期・中期の青少年たちの文章・絵画・詩歌・書の晴舞台であった本誌は、「明治文学の幼稚園」と呼ばれるほど、のちに多くの作家・政治家・学者を輩出した。一八七〇～九〇年代日本の、地方も含めた文化・社会状況を生々しく体現する第一級資料として近代思想史・教育史・文学史研究に提供するものである。

山縣悌三郎＝主宰

少年園《全13巻・別冊1》

- 明治21年～明治28年刊
- 別冊＝解説（滑川道夫）・総目次・索引
- A5判・上製・函入・総7、100頁
- 本体揃価格＝220、000円＋税
- 推薦＝上笙一郎・唐澤富太郎・桑原三郎・佐藤忠男・滑川道夫

本誌は、近代国家形成期の明治二〇年代、学校教育・家庭教育・社会教育と並んで書籍による少年教育を多分に意識した雑誌で、刻苦勉励して自己の道を切り拓き功成り名を挙げ、国家有為の人材となることをねらいとしていた。教育志向の一方、教養・娯楽の分野もふんだんに盛り込み、児童向け総合雑誌の先駆として豊かな内容を誇っている。近代日本教育史、児童文学史研究に欠かせない資料として、全一五六号を復刻。

小國民

復刻版概要

◎

〔体裁〕
B6判（第1巻のみ）・A5判 上製 総八二九〇ページ

〔本体揃価格〕
二八万八〇〇〇円＋税

〔別冊〕
解説（上笙一郎）・解題（上田信道）・総目次・索引
付＝『「小国民」総覧（石井研堂編）』（一九四一年）（これのみ分売可＝本体価格三、〇〇〇円＋税）

〔推薦〕
勝尾金弥・本田和子・山口昌男・山住正己

〔配本〕
全三回配本＝一九九八年一一月～九九年一〇月

●配本	●復刻版巻数	●原本年号数	●原本発行年月	●配本年月	●本体価格
第一回	第1巻	第一年第一号～第二年第一二号	明治二二年七月～二三年五月	一九九八年一一月	＝九万円
	第2巻	第二年第一三号～第二五号	明治二三年六月～一二月	4-8350-0539-2	
	第3巻	第三年第一号～第一二号	明治二四年一月～六月		
	第4巻	第三年第一三号～第二四号	明治二四年七月～一二月		
	第5巻	第四年第一号～第八号	明治二五年一月～四月		
第二回	第6巻	第四年第九号～第一六号	明治二五年五月～八月	一九九九年四月	＝九万円
	第7巻	第四年第一七号～第二四号	明治二五年九月～一二月	4-8350-0545-7	
	第8巻	第五年第一号～第八号	明治二六年一月～四月		
	第9巻	第五年第九号～第一六号	明治二六年五月～八月		
	第10巻	第五年第一七号～第二四号	明治二六年九月～一二月		
第三回	第11巻	第六年第一号～第八号	明治二七年一月～四月	一九九九年一〇月	＝一〇万八〇〇〇円
	第12巻	第六年第九号～第一六号	明治二七年五月～八月	4-8350-0551-1	
	第13巻	第六年第一七号～第二四号	明治二七年九月～一二月		
	第14巻	第七年第一号～第八号	明治二八年一月～四月		
	第15巻	第七年第九号～第一六号	明治二八年五月～八月		
	第16巻	第七年第一七号・第一八号	明治二八年九月～一二月		
	別冊	『少国民』第一～第三号			

本体揃価格＝二八万八〇〇〇円＋税

1998・9

不二出版（株）
〒113・0023 東京都文京区向丘1・2・12
電話〈03〉3812・4433
ファクシミリ〈03〉3812・4464
振替 00160・2・94084

●表示価格は、全て税別。